

あさひむら としよかん新聞

村立朝日村図書館発行
2024年2月1日
(第35号)

2月

節分



「お互いを理解し尊重すること」

「ジエネレーションギャップ」という言葉を聞いたことがありますが？ジエネレーションギャップとは、異なる世代間の意識や価値観、行動パターンの違いによって生じる認識やコミュニケーションの隔たりのことです。職場などでは「日常会話の話題が合わない」とや「仕事への姿勢の違い」「時代錯誤な言動」などにギャップを感じている方が多いようです。

異なる世代では、生まれ育った時代や社会的背景によって違った影響を受けるため、ジエネレーションギャップが生じます。それが埋まらない

のは、お互いの認識不足と自分の考えに周りを合わせようとするからかもしれません。自分たち世代の考え方だけに固執するのではなく、他世代の事も考え、理解する努力が必要となります。

さて、先月より朝日村図書館では「人権」をテーマに図書展示を行っています。どの世代にもこのコーナーを利用していただきたいので、絵本から専門書に近いものまで多数取り揃えました。また、LGBTQやヤングケアラー、男女共同参画や人種差別問題など様々な角度から「人権」について考えるコーナーとなっております。

入場無料 申込不要

人権講演会

ヤングケアラー物語

元当事者と考えるこれからの地域社会づくり

自身の体験をつづった漫画『48歳で認知症になった母』の原作者がヤングケアラーの実情と支援について語ります。



講師

11歳から16歳まで、若年性アルツハイマー病の母親を介護していた元ヤングケアラー。

「ヤングケアラーを支えていくには、彼らを孤立させない社会づくりが大切である」という考えのもと、自ら考案した「えんじょの」というウェブシステムを使い世の中に助け合いを広げる活動をしている。



一般社団法人生活互助支援の会代表
OneLife 堀井沢 居宅介護支援事業所
主任ケアマネジャー

また、ヤングケアラーの事を多くの人に知って貰い、彼らの気持ちに共感してくれる人を増やすために、誰でも親しみやすい「漫画」と「音楽」というメディアを使った独自の啓発活動に取り組みながら、各地で講演会やコンサートを開催してヤングケアラーの認知度向上に取り組んでいる。

美齊津 康弘 さん



主催：朝日村差別をなくし人権を擁護する推進協議会

開催日時
2/3(土)
10:00~11:30

お問い合わせ
朝日村教育委員会
電話：0263-99-4105
FAX：0263-99-2745
Mail：kyouiku@vill.asahi.nagano.jp

2/5(月)~2/8(木)
蔵書点検のため休館いたします

います。人権やジエネレーションギャップは「お互いを理解し尊重すること」からはじまります。ぜひ図書館で本を読んでみてくださいね。

2月3日には、「48歳で認知症になった母」の著者でもある美齊津康弘さんの人権講演会も予定されています。美齊津さんは自身もヤングケアラーだったことから、貴重なお話を聴くことができると思います。この機会に足を運んでみてください。



あさひしょうがっこう 朝日小学校2年生が作ったパンフレットを館内に展示しています
9月に図書館見学に来てくれた朝日小学校2年生が図書館のパンフレットを作成してくれました。34冊のパンフレットはどれも素晴らしく、見学に来て見聞きしたことが丁寧に書かれています。どなた様もぜひ手に取って読んでみてください。3月上旬まで展示予定

選挙とは？民主主義とは？
森の王だったライオンが水を独り占めしてプールを作った。森の動物たちはみんなカンカンです。さてこの問題はどやうやって解決したらいいのでしょうか？
選挙や民主主義についてまだ知らない子どもたちにはぴったりの選挙入門絵本。



「どうぶつせんきょ」
著者：アンドレ・ホドリゲス他
出版：ほるぶ出版

「絵本と私と人形劇」

わたしは絵本が好きで、家では絵本に囲まれた生活を送っている。子育て中は絵本が頼もしい味方。仕事を終えて、三人の娘と絵本を読むのは至福の時間だった。今は孫と一緒にわくわくしながら読んでいます。

図書館の思い出 下田和江

村図書館との出会いは子育ての頃からだから、40年ほど前。小さくてかわいい図書館だけ、ジャンルは幅広い。そこで村の昔話「足無様」を見つけ地域の方と一緒に劇

にして語り聞かされたのも思い出が深い。絵本とともに人形劇をするのも私の生活の一部になっている。人形劇サークル「ほろり座」として出発した時真っ先に声をかけてくれたのも図書館の方だった。以来、毎年図書館で人形劇公演をさせてもらっている。

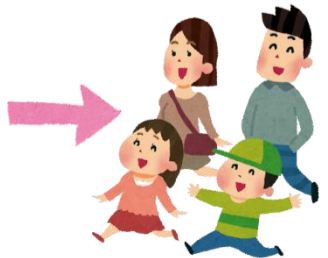
図書館誕生から百年、文化芸術を大切にしてきた村の先人の思いが感じられる。家族の成長そして人と人のつながりを思う時、いつも傍らに図書館があった。感謝です。これからも一緒に頑張りたい。

最近

数年前まで



ほとんどの
お子さんが
お母さんと
来館。



家族やお父さんと来館されるお子さんも増えていきます。

最新の朝日村図書館